

(1) 教員養成に対する理念・構想

①大学

本学の建学の精神は、「偉大なる平凡人たれ」という言葉に示されているように、社会人として地道な努力を重ね、平凡にも見えるひとつひとつの仕事に精一杯の力を傾け、その中で自分が大きく成長していくとともに社会の発展にも貢献していくことができるような人材の育成にある。そのためには、基礎的な教養と専門的知識を身につけ、自ら考える知力を獲得すると同時に、他方ではまた、つねに現場や他の人々の意見からも学ぶという謙虚な姿勢を持ち合わせていることが、大切な要件となる。そしてまた、その両面を合わせ持つことは、人格の倫理的陶冶そのものでもある。

本学の教職課程の目標・理念も、本学のこの建学の精神と不可分の関係にある。すなわち、自分がそうした「偉大なる平凡人」となることをめざすだけではなく、さらに、生徒たちを「偉大なる平凡人」へと育成することに力を傾注しようとする教育者の養成である。本学の教職課程では、「偉大なる平凡人たれ」という全学共通の建学の精神を背景として、とくに次のような諸点を念頭に置いて教育を行う。

- (1) 生徒に対して深い親愛の情を持ち、努力を惜しまぬ教育的情熱に満ちた教員を養成する。
- (2) 生徒や他の教員とのコミュニケーションを大切にし、つねに開かれた心を持った教員を養成する。
- (3) 自己陶冶に努め、絶えず自らの専門的知識・技能を高める意欲を抱いた教員を養成する。
- (4) 知・徳・体のバランスのとれた人間性豊かな教員を養成する。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

国際学科

イ. 指導体制の構築

教職課程履修生の1年次生から質の高い教職科目の授業が展開できる教育環境を整えている。学科の専門教育科目にて、英語で学習する科目を配置しており、合わせて教職科目においても、積極的に英語で学習する機会を設けていくように教員が連携して指導していくことができる体制を構築する。

また、実践的な英語能力の十分な訓練、海外留学による現地生活体験、専門教育科目での英語による授業等を通じて、異文化を理解し、文化的背景の異なる人々と共に暮らし、平和で豊かな国際社会の創造に貢献できる人材の養成を目的としていることから、教職科目の授業においてもこの目的に照らし、学科が目指す人材育成につながる指導体制を構築する。

ロ. 教育・研究の理念

中学校、高等学校の英語教員を志向し、高い意識で学び続けるために、教員相互に以下のような教育・研究を行う。

○ 国際語としての英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、英語を用いたコミュニケーションを積極的に行的おうとする態度育成を図る教育・研究。

○ 英語圏の国々の習慣や文化などについて知ることを通じて異文化理解を図り、海外留学を通して相手の状況や考え方を的確に理解し、自己の考えを適切に伝える能力を高めるための教育・研究。

○ 英語を人間相互のコミュニケーションのためのツールとするだけに留まらず、お互いの国の文化交流や教育の発展に関する教育・研究。

このような教育・研究を通して学生教育を行うことによって国際学科が求める人材像に近づいていくが、より確かな具現化を図るため、学科の教育において身に付かせたい「実践的な英語能力」「異文化理解力」「洞察力・分析力」「問題解決力」と関連させて教育活動を行っていく。

(2) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごと）

国際学科

中学校教諭一種免許状（英語）

小学校に外国語活動が導入され、特に音声面を中心として外国語を用いたコミュニケーション能力の素地が育成されることになったこと、中学校・高等学校の外国語・英語の授業では、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて英語で発信することが可能となるよう、中学校・高等学校を通じて、4技能を総合的に育成する指導を充実することにより、4つの領域の言語活動の統合を図ることなどが、英語教育に求められている。また、中学校教育においては、外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」などのコミュニケーション能力の基礎を養うことが目

標であり、「外国語を通じて」という教科に特有な方法によって目標の実現を図ろうとするものである。

このように小学校・中学校・高等学校を通じて、コミュニケーションを重視した英語教育の充実が図られていることを踏まえ、大学教育において、中学校の英語を担当する教員の養成を4年間にわたって計画的・体系的に行っていく、専門性の高い英語教員を輩出する。

高等学校教諭免許課程（英語）

知識基盤社会化やグローバル化が進行する現代社会において、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性を十分に認識し、多様な人々とコミュニケーションを行う積極的な態度と言語能力の素地を有する人材を育成することが求められている。そのような人材育成の観点に立ち、高等学校の外国語・英語の授業では「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能を総合的に育成するための統合的な指導により、生徒のコミュニケーション能力を更に伸ばすことが求められている。加えて、異なる文化や文明との共存の必要性を認識するために必要となる基礎的・基本的知識の習得と、確かな学力を確立するための教育が重要である。

このように、高等学校において、英語を通して多様な文化的背景をもつ人々とコミュニケーションを行うことを重視した英語教育の充実が図られていることを踏まえ、大学教育において、高等学校の英語を担当する教員の養成を4年間にわたって計画的・体系的に行い、英語に関する高度な知識と技能、及び、国際社会に関する専門性の高い英語教員を輩出することを目指す。